

# 審議課題の整理

葉山町のごみ処理の現状、将来の安定処理等を勘案すると、本審議会で審議し、方向性を示すべき項目は、次の6項目

- 1.基本理念・基本方針
- 2.ごみの減量化・資源化
- 3.事業系ごみ対策
- 4.ごみ・資源物の収集体制について
- 5.ごみ処理広域化について
- 6.クリーンセンターの整備について

# 1. 基本理念・基本方針

## ●現行計画

基本理念：ゼロ・ウェイストのまち葉山をめざします

基本方針：

方針1 地域にあった方法を選ぶ

方針2 実践から発想する

方針3 適正な処理技術・施設を選択する

方針4 良い取組みが報われる

方針5 段階的にごみを減らす

・**逗子市、鎌倉市とのごみ処理広域化については、「資源の無駄をなくし、環境負荷の少ない循環型社会の形成に資するゼロ・ウェイストの実現を目差す」を基本理念に位置付けることとしている**

## 2. ごみの減量化・資源化

### ①上位計画における位置付け

#### 第四次葉山町総合計画

計画期間平成27年度～平成36年度

基本目標5 豊かな自然に囲まれた中で、環境に配慮しながら、  
安全で快適に暮らしているまち

基本施策15 循環型社会の形成

まちづくり指標	平成25年度		平成32年度
リサイクル率	36.1%	⇒	45%
生ごみ処理器普及世帯率	33.2%	⇒	50%

#### 現状と課題




- 戸別・資源ステーション収集の効率的な実施継続
- 生ごみ自家処理の普及
- 他自治体の協力を得ながら、長期的な適正・安定処理体制の確保

## 2. ごみの減量化・資源化

### ②現行計画における減量化目標と実績

減量化目標

平成27年度末までに燃やすごみを平成22年度比30%減

減量実績	平成22年度		平成27年度	
燃やすごみ合計	7,327t		5,826t	20.5%減
うち家庭系	6,327t		3,977t	37.1%減
うち事業系	1,000t		1,849t	84.9%増

### 3. 事業系ごみ対策

- 平成22年度から見て事業系ごみは増加
- 特に戸別収集実施以降、家庭用のごみステーションに出されていた「ただ乗り」事業系ごみが炙り出され、事業系ごみとしての収集量が大幅に増加
- 平成27年度には総可燃ごみに対する事業系ごみの割合が約32%となり、平成22年度の約14%に比べ18%増加したことになる
- 平成25年度に処理手数料の適性化を目的に10円/kgを25円/kgに処理手数料の見直し及び産業廃棄物の持込みを禁止

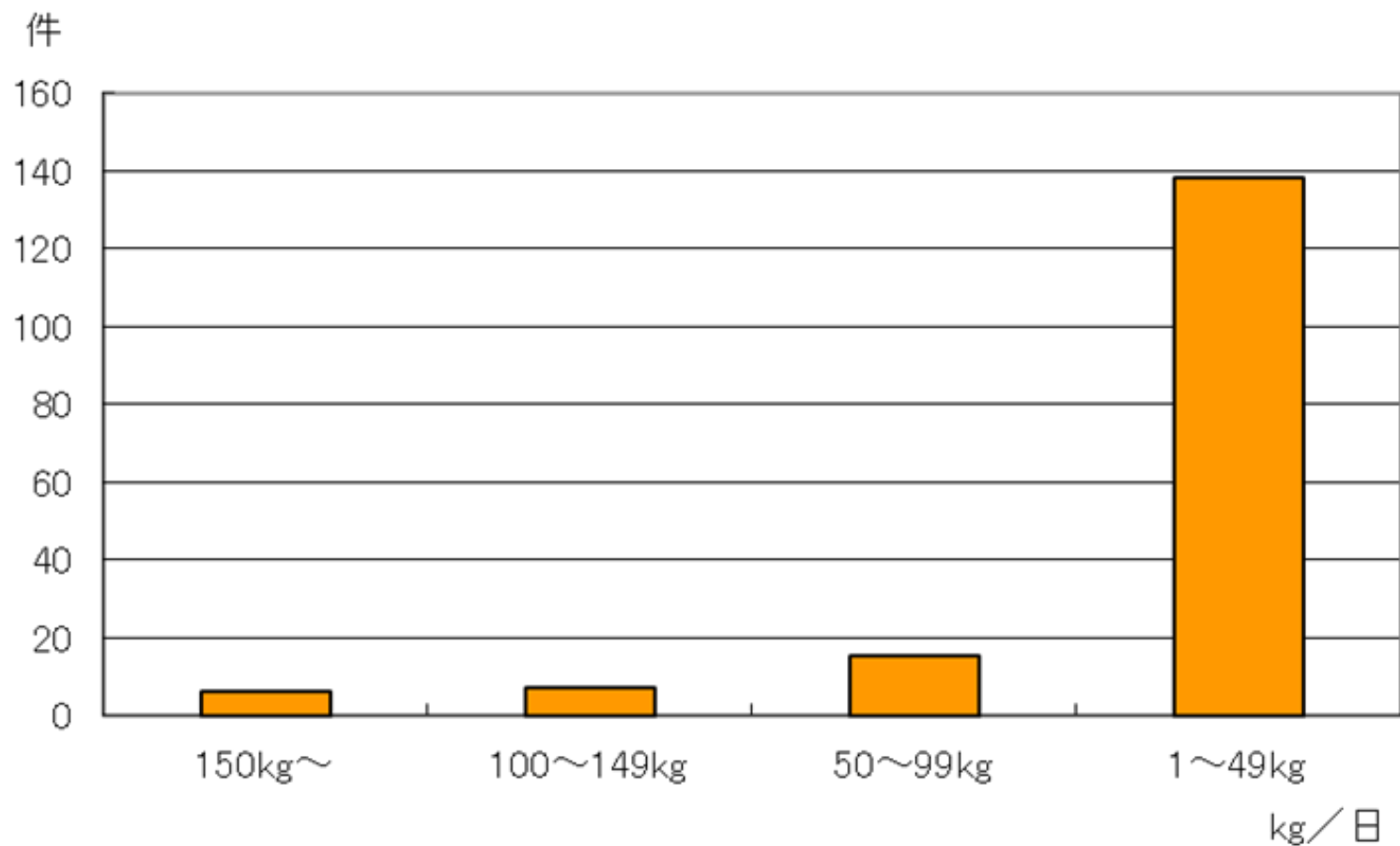
# 3. 事業系ごみ対策

## ●戸別収集実施前の事業系可燃ごみの組成分析結果

品目			飲食系		スーパーマーケット		その他店舗		合計		
			重量(kg)	割合(%)	重量(kg)	割合(%)	重量(kg)	割合(%)	重量(kg)	割合(%)	
1	適合	資源化可能	生ごみ	154.2	62.15	50.1	37.58	44.3	35.97	248.6	49.27
2		未開封の食品	60.8	24.51	53.7	40.29	0.1	0.08	114.6	22.71	
3		割り箸・楊枝	0.5	0.20	0	0.00	0.1	0.08	0.6	0.12	
4		廃食用油	4.2	1.69	0	0.00	0	0.00	4.2	0.83	
5		ごみ	紙おむつ・生理用品	0.2	0.08	7	5.25	51	41.41	58.2	11.54
6			その他可燃ごみ	4	1.61	1.4	1.05	11	8.93	16.4	3.25
7			紙ナプキン・紙コップ	5	2.02	1	0.75	0.5	0.41	6.5	1.29
8			資源化できない紙	0.5	0.20	0	0.00	0.4	0.32	0.9	0.18
9	混入	資源	資源化できる紙	12.3	4.96	3.6	2.70	12.6	10.23	28.5	5.65
10			段ボール	0.5	0.20	0	0.00	0.3	0.24	0.8	0.16
11			古布	0.8	0.32	0	0.00	0.5	0.41	1.3	0.26
12			植木剪定枝・廃材	1.3	0.52	15.5	11.63	0.05	0.04	16.85	3.34
13			容器包装プラスチック	1.4	0.56	0.1	0.08	1.5	1.22	3	0.59
14			プラスチックカップ類	0.1	0.04	0	0.00	0	0.00	0.1	0.02
15		不燃系資源（アルミ箔）	0.3	0.12	0	0.00	0	0.00	0.3	0.06	
16	ごみ	廃プラスチック	0.5	0.20	0.2	0.15	0.4	0.32	1.1	0.22	
17		排出袋	1.5	0.60	0.7	0.53	0.4	0.32	2.6	0.52	
合計			248.1	100.00	133.3	100.00	123.15	100.00	504.55	100.00	

### 3. 事業系ごみ対策

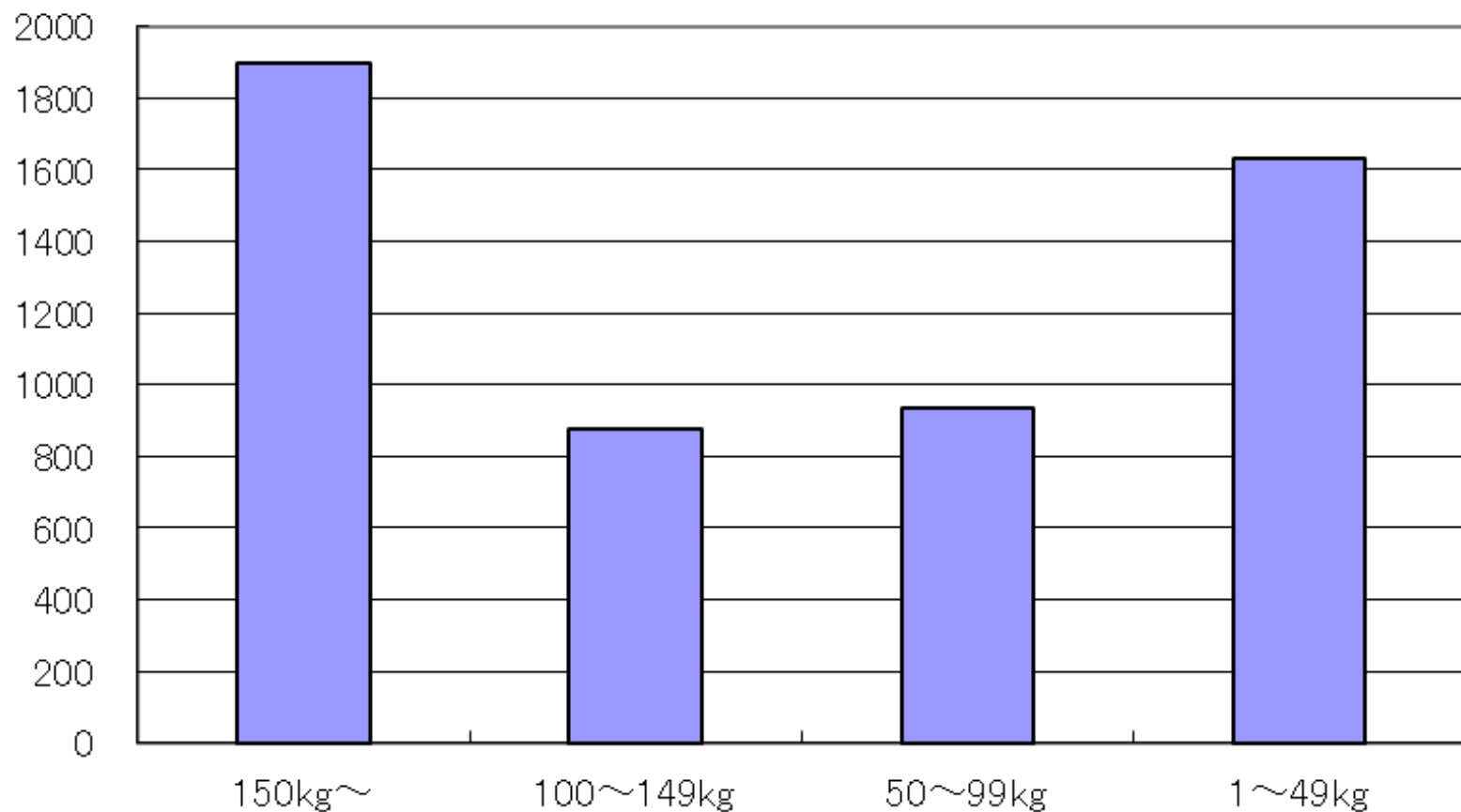
発生量別事業所数



### 3. 事業系ごみ対策

規模別の総発生量

kg/日



kg/日



### 3. 事業系ごみ対策

- 生ごみ、未開封食品のいわゆる「食品ロス」が全体のごみ組成の約7割を占める
- 事業所の構成は、日発生量1～49kgの比較的小規模な事業所が大半を占める
- 規模別に1日当りの発生量をまとめると日発生量150kg以上の大規模店舗が最も多くなる

## 4. ごみ資源物の収集体制について

	現 況	予 測		
	平成27年	平成30年	平成35年	平成40年
幼 齢	4,535	3,983	3,259	2,677
生 産	18,832	18,885	18,912	18,481
高 齢	10,106	10,125	9,921	9,791
合 計	33,473	32,993	32,092	30,949
高 齢 化 率	30.2%	30.7%	30.9%	31.6%
高 齢 前 期	5,215	4,848	3,863	3,527
高 齢 後 期	4,891	5,277	6,058	6,264

※上表の予測値は環境課独自でコーホート推計を実施したもので、基本計画において使用する推計値については、他計画との整合を図りながら決定していく

## 4. ごみ資源物の収集体制について

- 人口減少の中、高齢化率は上昇
- 高齢人口のうち、後期高齢者(75歳以上)が増加、平成40年には高齢人口の約64%を占める
- 福祉的支援(ふれあい収集等)が必要までではないが、資源ステーションまでの排出が困難になる世帯が増加する可能性がある

## 5. ごみ処理広域化について

- ・ 今月29日に、逗子市・鎌倉市・葉山町の2市1町によるごみ処理広域化覚書締結
- ・ 当面は逗子市・葉山町において既存施設を活用し効率的かつ適正な処理体制の構築を目差す

### 広域化のメリット

- ・ 安定処理の確保
- ・ 広域圏における処理効率(コスト含む)の向上
- ・ 長距離輸送におけるリスク(事故等)減

## 6. クリーンセンターの整備について

- ・昭和52年に建設された現クリーンセンターは、全体的に老朽化(耐震未対応)
- ・平成22年にダイオキシン基準オーバーにより焼却炉を休止、し尿焼却炉と併せ2施設の解体が必要
- ・現在の施設では、可燃ごみの逗子市への全量搬出及び植木剪定枝の全量受入は困難
- ・併設されている不燃物処理施設の取扱い(再整備or廃止)